

教育システムの安全かつ快適なクラウドサービス利用について

～関西大学のクラウドへの取り組み～

関西大学学術情報事務局システム管理課

柿本昌範

(アブストラクト)

関西大学では、2012年9月より、クラウドシステムを活用した教育システムの運用を開始した。本システムでは、データセンターを利用し、仮想化技術によるサーバの集約を行い、ファイルサービスにはクラウドシステムを導入した。また、本学キャンパスとデータセンター間は、SINET4のL2VPNサービスを利用し、学内ネットワークと同等のセキュリティを確保している。本講演では、導入経緯を交え、システムの特徴や今後の展開について紹介する。

(キーワード)

クラウド、仮想化、データセンター、SINET、メール、ファイルサーバ

(要旨)

教育システムの更新において、従来のシステムでの定期的なサービスの停止や、セキュリティ強化による利便性の低下が課題となっており、これらを解決する新しいシステムの構築が必要となった。そこでデータセンター利用により、ノンストップ運用を実現できるインフラ基盤を構築した。データセンターで運用するサービスとして、まずはメールとファイルサービスの移行を行った。データセンター単独での学外向けサービスを可能とするため、データセンターにDNSやLDAPをはじめとする統合認証システムを構築して学内キャンパスとのデータ同期を行っている。また、ファイルサービスにはクラウド型のオンラインファイルサービスを採用しリソースの最適化とコスト削減を実現した。

関西大学では、ICT環境のクラウド化を進める方針で、今回の教育システムのクラウド化がその第一歩となった。今後は大学全体のシステムについて、サービス及び品質の向上とコスト削減、システムの効率化が実現できる最適なクラウドシステムを検討する予定である。

以上